

# 明治村

## だより

2000 Spring



春号  
Vol.19



### 目次

明治村三十五年 六十三の語り部の物語	西尾 雅敏 …… 2
館蔵資料紹介(へ)	
西園寺公望の遺愛品	平末 綾子 …… 9
蔵書紹介 2	
あこがれの書斎	遠藤 照子 …… 10
明治村の仕事 6 結婚式担当	…………… 11
ミュージアムショップから 2	…………… 12
明治村茶会案内	…………… 13
春の明治村	…………… 14

表紙写真 三重県庁舎とレンギョウ

『明治村だより』  
第二十号発行のお知らせ  
発行時期 平成十二年七月(予定)  
申込方法 「明治村だより」第二十号ご希望の旨  
及びご住所・お名前を明記の上、送料  
一四〇円の切手とともに封書にてお  
申し込み下さい。

平成十二年三月十五日発行  
「明治村だより」第十九号(平成十二年春)  
発行 博物館明治村  
愛知県大山市内山一帯地  
電話(〇五六八)六七〇三二四 千四八四一〇〇〇〇  
ホームページ http://www.meijimuseum.co.jp/meiji-vil/  
製作 大日本印刷株式会社

# 明治村三十五年 六十二の語り部の物語

西尾雅敏(当館 建造物担当部長)

## 発足

博物館明治村は昭和四十年三月十八日に開館しました。明治時代に造られた建築物を移してでも遺そうという目的で開設された、日本で初めての民間野外博物館でした。しかし、その発端は二十五年も遡ります。昭和十五年、当時、東京工業大学教授であった谷口吉郎は、鹿鳴館が壊されたことに強い嘆きを感じ、次のような文章を新聞に寄せました。

「先日、日比谷の近くを通ると、黒門の奥にあった鹿鳴館の姿が消えているのに驚いた。老朽のため不用となったのであろうが、取りこわされたのは惜しい。この洋風建築は明治初期の急進的な外国崇拜を示すものである。今日の非常時には国民思想を毒するものと非難されるかもしれない。しかし、過去の歴史的な資料として有意義に活用してほしかった。歴史は曲げたり、抹殺することはできない。むしろ、時の流れを凝視することが大切であ

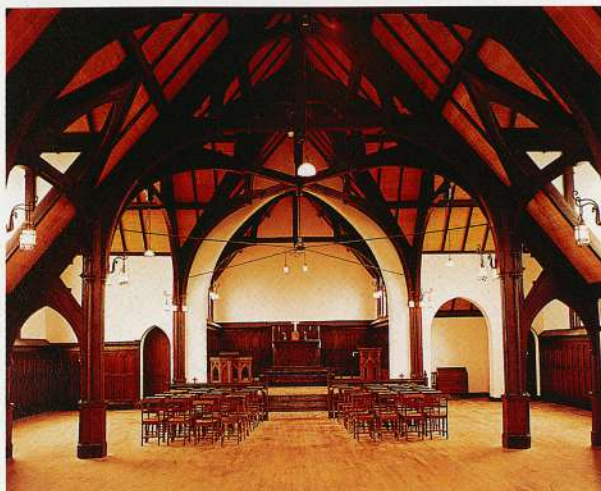


写真1 聖ヨハネ教会堂内陣

西暦二千年一月一日、今年の初参りは、聖ヨハネ教会堂、聖ザビエル天主堂、大明寺聖パウロ教会を巡りました。朝9時半、東南に上った日の光が約百年前のステンドグラスを透して、ヨハネ教会内陣中央の壁に輝く星のようにゆれていきます。(写真1) 山と池に挟まれた二十七万平方メートル程の村落に(注1)、由緒ある教会を三つまでも置いている集落は日本中探してみてもそうざらには無いでしょう。博物館明治村は、普通の行楽施設ではなく、歴史上珍しい村になったと言えます。西暦二千年という節目に、実は明治村も開村三十五年という節目を迎えます。その長い年月の内、三十年を過ごした者として、明治村の過去と現在、そしてこれからの記しておかねばならないと思います。

(注1: 明治村全域は山や谷を含め約百万平方メートル、その約三割が集落の区域です。)

先ず、明治村の歴史のあらましから。

る。そのために、鹿鳴館の建築を保存し、明治時代に生まれた人々が心を合せ、所持品や記録などを持ちよって博物館にしたら、明治を記念する記念館となつたらうに。それこそ次の時代におくる有意義な贈物となつたらうと思うと、惜しい気がしてならない。」

「明治の愛惜」と名付けられたこの文から二十年後、数々の由緒ある建物が別の形で危機に見舞われていました。驚異的な戦後復興を果たした後、日本は高度経済成長の時代に入ります。その時、明治時代に創建された古い建築物は、狭い、使いにくい、汚い、などの理由で、取り壊しの境遇へ押しやられていったのです。しかし、それらの建物を救済残そうという動きは、どこの公的機関にも未だ生まれていませんでした。鹿鳴館の嘆きを繰り返したくないという思いを持った建築家谷口吉郎は、同じ思いの人々に構想を話し、建物の移築保存を開始しました。谷口博士は、この行為を建物のサルベージとも、救急車とも言っていました。

## 開村から現在まで

開村前の三年程の準備期間に各地から移築された建物は十五棟になりました。それらの建物が如何に価値あるものであったかは、その十五棟の内八棟が現在国指定重要文化財で

あることを見ればおわかりでしょう。ただ当時の世間の風は冷たかったと言います。使い難くなれば壊して別のものを建てる。それが当たり前の風潮で、不要になった建物を丁寧に解体して移し建てようなどは、狂気の沙汰です。豚小屋の建築材料として養豚業者に払い下げが決まっていた札幌電話交換局舎、プロ野球選手のクラブハウスに使われていた西郷従道邸、扉も屋根も台風被害でぼろぼろであった菅島燈台付属官舎、どの話も今では楽しいエピソードのように思えます。

意気込みは強くても、果たして成り立つかという不安はつきものですが、開館してみると、予想外の盛況で、開村したその年に明治村を訪れた人の数、およそ七十万。翌年、また七十万。三年目は百十万人。百四十万人。その後、コンスタントに百二、三十万人が見学に訪れたのです。開村して三年目が、明治百年に当たったという幸運はありますが、ひよっとして、世間の多くの人は明治建築が再び美しく建ち並ぶ姿を心のどこかで望んでいたのかも知れません。明治村の成功と共に、解体移築についても、人々は好意的に見るように変化してきました。全国各地から取り壊しの情報が次々ともたらされるようになったのです。見学の客が多ければ、入場料収入が増え、その金を次の建物移築費用に回せますから、移築工事を精力的にこなすことが



写真2

今から思えば、その頃明治村発展のピークに達していたのかも知れません。今日博物館明治村を代表する建物はその頃ほとんど完成しています。帝国ホテル中央玄関、聖ザビエル天主堂、呉服座、坐漁荘、三重県庁舎など。創建からの由緒と、取壊しの時のエピソードを持ち、今なお風格を失わない建物達が、尾張北部の緑豊かな林の中に、永住の地を得たのです。一方、明治村の外でも大きな変化がありました。明治村が開村し成功したことにより、各地で建物現地保存の機運が盛り上がってきていました。風土記の丘、歴史資料館、郷土資料館など地域のアイデンティティを求めて、地元に残る建築物の保存に力が注が

れました。

二十年目までの入場者数は毎年百二、三十万人を超えていましたが、新規の移築が減り始めた時、入場者数に陰りが見えてきました。新規の移築が一旦止まった昭和六十一年以降、年間入場者は百万人台となり、パブル景気の破綻も重なって、その後下降を続けています。別の分析を試みてみると、入場者数の増減は、明治村で行われた特別展の数や内容の変化とも似ていることもわかりました。開村から十年間は、明治時代の著名人を扱った特別展が多く、各地から緑の品々を借用して年四、五回開催され、マスコミ受けもしました。十年を越える頃から、建物以外に明治村に収集された様々な資料類を展示する、いわゆる館蔵品の特別展が増えて来ましたが、世間では映像革命が進み、旧来の展示では人々の興味を掴みきれないように見えます。博物館の展示と言えども、現代のタレント公演と同様に人気稼業のようです。そして今、明治村は色々な意味で危機に陥っています。

## オムニバス

博物館明治村が危機から脱するためには、明治村を改めて総括して見る必要があります。よう。車下せず身びいきにならず正しく評価する必要があります。明治村が救済し展示し

ている建物は総棟数六十三、九州から北海道まで、さらにはアメリカ、ブラジルからも移築し、資料類も数万点、建築書を中心に書籍類およそ五万冊に達し、昨年には、三重紡績（後の東洋紡績）で使われていた紡績機械も国の重要文化財に指定を受けるに到っています。質・量ともに日本の近代化を語るに十分な集積になったと言えます。

明治村に集められた六十三の建物の物語はそれぞれ何の関連もありませんが、そのオムニバスを年代順にたどると、私たちの身の回り起こった近代化の姿がはつきりと見えてきます。イントロだけを綴ってみます。ちょっと疲れますが、辿ってみてください。

明治初年、まだ江戸と呼ぶ方が似合っていた東京向島に或る豪商の寮が作られました。深い軒が特徴のその家には、後、江戸庶民の姿を小説に残した幸田露伴が住み、自身で「蝸牛庵」（写真3）と名付けました。同じ頃、焼津に出来た魚屋山口乙吉の家は、東海道沿いの軒の低い家で、小泉八雲が好んで避暑に逗留したものです。西へ下って愛知県三河に造られた米蔵は、明治年間に別の場所へ移されて菊の世酒造の酒蔵になりました。京都では、明治三年中井酒造が、御所から目と鼻の先に、虫籠窓のついた京都風の店を構えました。文明開化は交通を中心に進みます。東京湾



写真3 蝸牛庵

防備の要、御台場に品川燈台が建設されたのは明治三年、フランス人の技術援助を受けました。鉄道はイギリスの協力で始まります。明治五年の開業時、新橋駅構内の機関車庫はリパブルからの輸入鉄材を組み立てて建設されました。海に囲まれている国で燈台は必需品、燈台守も最初は海外からのお雇い外国人が当り、三重県普島にも付属官舎ができました。（写真4）明治六年、こちらはイギリス風。維新政府は富国強兵をスローガンにしました。陸軍整備の一環で、名古屋には歩兵六聯隊が置かれ、フランス流の兵舎が名古屋城内に建設されました。陸運の発達にはやはり鉄橋が必要で、東海道川崎近くに六郷川鉄橋（写真5）が造られたのは明治十年のことです。新時代に入って十年しても伝統の姿は変わらないことなく、京都に造られた亦楽庵は、唯一開

放的なところが興味深い茶室です。この頃、最先端の研究課題は板ガラスを造ること。品川に出来た煉瓦造のガラス製造所では日夜研究されましたが、結局成功しませんでした。新しい軍隊が配置されると、当然負傷者の治療施設が必要で、歩兵六聯隊の傍らに名古屋衛戍病院が開設されました。明治十一年の事です。翌年、この病院から少し離れて伝染病棟が計画されますが、その申請先は陸軍卿西郷従道。西郷公爵はほぼ同じ頃、東京上目黒に外国高官接待用の大邸宅を造ります。（写真6）フランス人の設計で、内装が美しい洋館です。

徳川時代、日本ではキリスト教が禁止されてきました。明治になり禁教が解かれます。それを受けて長崎の伊王島に、外から見れば素朴では可憐な大明寺聖パウロ教会が信者の力で創建されました。明治政府の新政策を



写真4 左：普島燈台付属官舎  
右：品川燈台



写真5 六郷川鉄橋



写真6 西郷従道邸



写真7 手前：神戸山手西洋人住居  
奥：長崎居留地二十五番館

国全体へ行き渡らせるための地方組織の整備も進み、擬洋風建築の三重県庁舎などは、庶民から見ると外国の姿で、まさに新時代の幕開けでした。この当時は、県組織の下に郡が置かれ、黒漆喰の隅石積みが目を引く東山梨郡役所も、田舎の町では最先端の姿として耳目を集めました。三権の内、司法の西欧化も進められます。若狭湾の町、宮津に作られた法廷は、江戸時代のお白洲をそのまま洋風にした感があります。

明治も中頃となり、道路の近代化も形になってきます。二十一年に架橋された天童眼鏡橋は、ローマのアーチ橋と同じ原理の石橋です。翌年、前橋に監獄が建設されます。放射型の配置は近代的でしたが、監房そのものは徳川時代の牢屋と余り変わりのない形でした。同年、三重県津市に小学校教師養成の尋常師範学校ができました。三重県庁舎と同じ棟梁

の仕事です。この頃、皇居整備が佳境にあります。皇宮警察坂下護衛署が建設され、二重橋には大きなグロープの飾り電燈が輝きました。鉄道開業から十五年、施設の拡張が進みます。二十二年、新橋駅構内の工場が輸入建材を真似て作られました。江戸時代唯一の開港場であった長崎には、外国人のための居留地が開発されました。どの家も東南アジア植民地風で、二十二年創建の二十五番館もその一つです。（写真7）神戸は明治になって港の整備が進んだのですが、山手通りには外人高級住宅、少し下った町中には大井牛肉店も店開きし、町の生活が変化してゆきます。



写真8 手前：呉服座  
奥：聖ザビエル天主堂

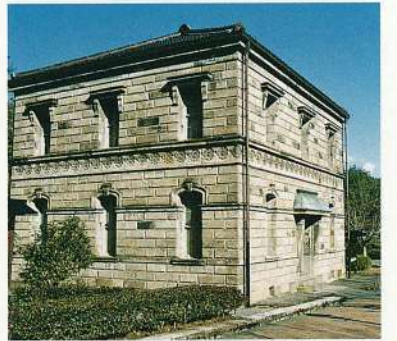


写真9 札幌電話交換局



写真10 左：東松家住宅、右は中井酒造

ます。森鷗外は軍医として留学しましたが、日本に帰ってからは文豪として有名になりました。帰国早々は、借家住まいでした。夏目漱石も偶然同じ家に借家します。二人がこの書齋で書いた小説は、「文づかい」「吾輩は猫である」。この家の渾名は「猫の家」となりました。公共建物でも、海外留学組によって設計される時代になりました。金沢の第四高等学校物理化学教室は、階段教室の具合が大変よろしい。パリの学校に居る気分がします。明治天皇の後、昭憲皇太后の寄付により、日本赤十字病院が東京の広尾に作られたのは明治二十三年、後、赤坂離宮を設計する片山東熊の設計です。西暦では千八百九十年、ザビエルがキリスト教伝道のため来日してから四百年になります。その事を記念して、京都河原町三條にザビエル天主堂(写真8)が建設されました。フランス人神父の設計で、ステ

ンドグラスが綺麗な大聖堂です。少し、西へ行った大阪郊外に芝居小屋呉服座が開場したのも明治二十五年頃の事。和風の小屋でも、屋根裏の構造は洋風。東京で行われていた皇居整備も最後の段階で、二十六年、正門の石橋が完成。欄干には獅子足の飾り電燈が載せられました。

近代化の波は、地方へと広がってゆきます。大阪の河内に、大きな千早赤阪小学校講堂が建設されましたが、どうも、その材料は明治初年に大阪市内で何かに使われたものからの転用のようです。三十年頃、未だ鉄道も通じていない木曾路の町に西洋医学で治療する清水医院が作られました。その医者には鳥崎藤村の姉も世話になったようです。「ある女の生涯」に書かれました。北海道は開拓の新天地。新技術の投入も早く、電話交換局(写真9)が札幌に建設されたのは、日本への紹介から

わずか十年ほど。寒冷地札幌での火災から守るため、石造局舎となりました。時代に即応して成功する人も現れ、名古屋の町中に木造三階建ての店を構えるに到りました。東松家住宅(写真10)で、間口が狭く奥に長い敷地に合せ、通り土間形式の豪壮な商家です。日露戦争の折、瀬戸内海の軍港宇品の前に、急遽立てられたのが小那沙美島燈台。早く供用できるよう、鉄造組立式の燈台でした。

明治も四十年代に入ると、形振り構わぬ姿から、開発にも余裕が出てきます。東北、会津若松に出来た安田銀行は、安心してお金を預けられるように、伝統的な土蔵造りの建物に洋風の内装を施しています。新政府になって罪人の待遇が特別に変わる訳ではないでしょうが、金沢に造営された監獄の監房は、従来のものと違い、暑さ寒さや風の心配は無い建物でした。その分頑丈です。煉瓦造の監獄門は、門として見れば恐ろしいより美しい。キリスト教にはカソリックとプロテスタントがあります。京都河原町五條に作られた聖ヨハネ教会はプロテスタント、立教学校の初代校長で建築家のアメリカ人ガーディナーの設計、大胆な外観とシックなインテリアが特徴です。アメリカ本土への移民の中で、運良く成功した人は美しい住宅に住むことができますようになりました。シアトル移民住宅(写真11)がそれです。ヨハネ教会もシアトルの

住宅も千九百七年の創建です。明治四十一年、東宮御所として造営されたのが赤坂離宮で、その正門には本館の雰囲気壊さぬようフランス宮殿風の哨舎が立てられました。時の記録は写真が一番です。同じ四十一年、新潟の豪雪地高田に作られたモダンな写真館、小熊写真館には、日本最初のスキーの記録写真が残されています。教育制度も進み、大学が多様になってきます。東京巣鴨に建てられた宗教大学本館は豪壮なもので、その車寄せでも、高さ七メートルくらいあります。日露戦争で有名になった乃木將軍が学習院長であった明治四十二年、院長官舎として建てられた建物は、洋館と和館をくっつけた簡潔な形です。ナンバースクール全国最後の高



写真11 シアトル日系福音教会

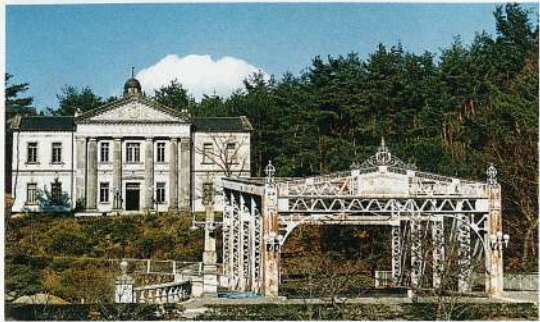


写真12 手前：新大橋 奥：内閣文庫

と鉄を使い、明治建築の特徴をよく表しています。歴史の社、伊勢神宮の前にモダンな郵便局が出来たのもこの年でした。四十三年、東京盲学校が作られ、その建物正面車寄せは、イギリス風ハーティンバーの様式で造られました。そして明治も終りの年、外国から学んだ西洋建築の集大成の一つが皇居の中に造られました。内閣文庫(写真12)です。彫刻された石を積み、ギリシャ建築を彷彿とさせるこの建物を設計した大熊喜邦は、後に国会議事堂を建設しました。

明治開化から約半世紀を過ぎましたが、未だ、庶民の生活には和風の部分も残っていて、愛知県知多半島の先に作られた東湯はヒノキの香がするかわいいい銭湯です。本郷弓町二丁目に開業した喜之床は石川啄木が二階に寄宿したから有名な普通の床屋です。京都七條の竜谷大学前にはタイル仕上げの交番が置かれました。この頃から、同じ外観でもレンガではなくタイルを使う時代に移ります。電車が大量輸送の主役に成長してきます。名古屋郊外岩倉に作られた変電所は煉瓦造の終わり頃の作品とな

りました。レンガの要所要所に嵌め込まれた石の形が素晴らしい建物です。東京の名物は両国の花火と隅田川五橋。最後の橋が新大橋、アメリカ、カーネギー社の鉄材が使われました。この橋が有名になったのは、関東大震災で唯一残って、多くの人々の命を救ったからです。

大正に入り、東海道線の起点駅が新橋から東京に移ります。新しい駅は建築界の大御所辰野金吾の設計で造られました。駅完成に合わせて正面に作られた派出所も、イメージを統一して造られました。医学の面での進歩は個人の努力に負うところが多いかも知れません。北里柴三郎もその一人。福沢諭吉の後援を得て、私立の研究所を設立しました。大正四年、東京白金にパスツール研究所やコッホ研究所を真似たエレガントな建物で始められました。日本人の心情は和魂洋才、まだまだ武道が盛ん。第四高等学校武術道場は柔剣道と弓道、三つの道場を併せた大きな建物ですが、大きな屋根を支える方法は洋風の小屋組で、正に和魂洋才。日本からブラジルへ移民した人たちもいます。渡航に使われた船は「石狩挽歌」に「沖を通るは笠戸丸」とも歌われている。移民が現地建てた住宅は、スペイン瓦を載せてエキゾチックですが、日本から渡った大工の手が入っています。明治、大正、昭和、常に政治の舞台に居た



写真13 坐漁荘



写真14 帝国ホテル車寄

一人に西園寺公望がいます。西園寺公望が隠居先を選んだのは静岡県興津の海岸、「坐漁荘」(写真13)と名付けたその別邸では、のんびりするはずが、元勳の意見を伺う客で賑やかであったといえます。数寄屋建築の粋を集めた建物です。

日本が西洋古典建築を学んでいる間に、世界は次の時代に進行していきました。古典様式から脱して、アメリカ独自の建築を目指したフランク・ロイド・ライトは二十世紀を代表する建物を遺しました。帝国ホテル(写真14)です。鉄筋コンクリート構造を巧みに使った新建築で、関東大震災にも付近で唯一無事であったため、これを契機に煉瓦造の洋風から鉄筋コンクリートの現代建築へ様変わりすることとなりました。構造は新しい鉄筋コンクリート構造でも、見かけは古典的な石造りの

様式主義を選んだのは、川崎銀行です。やはり、風格とか権威を捨て切れなかったのでしょう。

六十三の語り部によるオムニバスのイントロはこれでおしまい。このオムニバスには、世の中の発展過程、試行錯誤の経過を見聞することが出来ます。そして、この見聞は、将来色々な形で必ず役立つものと思われま。しかし、語り部は物言わぬ建物なので、見学に訪れる多くの人々に言葉がうまく伝わらないようです。それが、入場者が減った一つの要因と思われま。その結果として、博物館明治村は今、危機的状況にあります。この、自国の歴史を正確に伝えるという長期的で営利要素の無い公益事業を、四十年近く支えてきたのは民間企業です。国が運営しても難しいと思われるし、地方公共団体でも大変でし

### おわりに

よう。民間だからこそ始められたのですし、民間だからこそ、年々の景気変動に合せて維持体制を少しづつ変えながら続けられたものと考えられます。しかし、歴史、自然、環境、医療、教育など基本的に営利とかけ離れたものは、面白くなくても、いかに大変でも、健全に守ってゆく必要があります。その為には、民間、地方公共団体、国、皆で手分けして支えねばならないのではないでしょうか。

三十五年は人間にとって長い時間です。明治村を世に送り出した人々、谷口吉郎、土川元夫、藤岡通夫、城戸久、市川清作、諸氏がこの世を去られた。そして、創始の頃、谷口吉郎氏の片腕のように東奔西走し明治村の基礎を築いた菊池重郎氏も今年一月亡くなられた。二十世紀の終焉と共に明治村の一つの時代が過ぎました。文化財保存の仕事は時代の先頭を切るものではありません。むしろ船で言えば最後尾の舵にあたりま。舵取りは艦橋で行われるとしても、実際に船がそちらへ向けて進むかは、舵が正しく働いているか否かに掛かっています。明治村を二十一世紀に健全に引き継いでゆくに、多くの人の協力をお願いします。見学と言ひ形です。

## 館蔵資料紹介【八】 西園寺公望の遺愛品

明治村には、教科書にも載っている歴史上有名な人物にゆかりの建物が何棟あります。また、館蔵資料にはそうした人物の遺愛品もあります。今回は西園寺公望別邸「坐漁荘」と西園寺公望の資料をいくつか紹介します。

坐漁荘は、明治・大正・昭和にわたり、政治家・外交官として活躍し、「最後の元老」と呼ばれた西園寺公望(一八四九—一九四〇)がその晩年を過ごした建物で、静岡県清水市興津に建てられました。この建物の移築に伴い、財団法人西園寺協会から一九六九年に家具類、煎茶具、文房具、一九七一年には洋書、印譜などおよそ二百点の寄贈を受けました。

坐漁荘の居間に座机があります。(写真1)最近、興津の西園寺公望が座机を注文したときの依頼書が京都で見つかり、そこには挿絵入りで寸法を指定し、「仕切り前二尺三寸、奥六寸四分ウチナリ」と引き出しの仕切りについても寸法を指定しています。この仕様から推察するに、おそらくこの居間の座机のことと思われます。また、依頼書には「少々相違ありても差支えなし高サのみは九寸を正確に願上候」と書いています。九寸(約27cm)の高さは現在の私には低く感じますが、当時の一般的な座机の高さが八寸というところで、貴人は座布団を用いるためやや高めにしたといわれています。

西園寺公の警備主任をしていた増田社平の「坐漁荘秘録」に居間の机の様子が

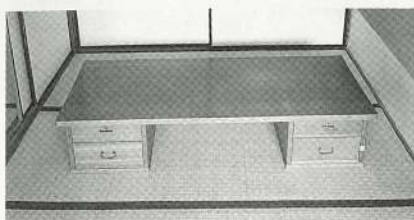


写真1

描かれています。「私どもは庭から眺めて伺い知る以外になかったが、目に入ったものは低い机ひとつであった。広いお座敷にはつんと見えた。公はこの机で読書や新聞を見たり、時折手紙を書いたり(中略)余分なものは一つもない。公のご性格にびつたり御居間で(後略)」西園寺公の日々の暮らしが何える記述です。坐漁荘にはサンルームを併設した洋間があります。ここで過ごした晩年の写真が遺されています(写真2)。この場所について描写した安藤徳器著「園公秘話」の「坐漁荘閑話」には「西は入口(中略)その北に公の日常の卓が置かれてある。後ろの壁に沿って、浅い五尺ほどの書棚があり、古銅の一輪差し、木彫りの高砂、青磁の香炉と印類十五、六を載せられ(中略)公の卓上には電気スタンド、書翰篋、筆硯、インクスタンドなどがそれぞれを待たせらんとしている。(中略)東北隅に小型のソファがあり、前に圓い小卓、椅子二脚(後略)」と記されています。現在も家具は当時の状態そのままだに保存されています。この写真(写真2)の書棚には蔵書が見られますが、晩年の西園寺公はかなりの時間を読書に費やしていたようです。小泉策太郎「随筆西園寺公」の中の「坐漁荘日記」は公の日常について述べられています。「近來は洋書の方がよくなつた。考へると、漢書は六つかしいので自然に疲れるから、いつとはなしにこれを避けて、若い頃に讀まれた洋書の方が重くても、字が小さくても、平易で讀み易い」とあります。洋書とは仏文書で、西園寺公は二十代から三十代にかけておおよそ十年フランスに留学しており、第二の母国語といえるほど堪能で、留学時代には女流作家のジュディツ・ゴオチエ(Judith Gautier)とともに古今集その他の歌



写真2

集から西園寺公が選んだものを訳した「POEMES DE LA LIBELLULE」一八八四年(蜻蛉集)を編集しています。館蔵の西園寺公の仏文書(写真3)は政治・外交・国際関係から戯曲・小説・伝記や追想録まで、その種類は非常に幅広いものです。また、盆栽・俳諧をはじめ多くの趣味をもっていた西園寺公は篆刻にも熱中していました。竹越興三郎の「陶庵公」に晩年の篆刻趣味について「当時の印刻熱は中々に激しく、印譜に関する名著ありときば閲覧せねば気がすまぬほどで、その中数種の名著はこれを大切に保存している」とあります。現在洋間にはイタドリや竹製の三本の杖を展示しています。いずれも西園寺公の遺愛品ですが、やや長めの杖は転ばないためと賊に襲われた時の防衛のためといわれ、細い鉄がしこまれている竹杖もあります。杖に限らず西園寺公は竹をとても好んでおり、室内の各所に竹を使った意匠を見ることが出来ます。なお、坐漁荘は11:00、13:00の1日2回、係員が室内を案内しています。ぜひ、この時間にお越しください。建物とともに西園寺公望の遺愛品をご覧下さい。



写真3

注：坐漁荘公開のスケジュールは変更になる場合があります。

### 参考文献

- 増田 社平「坐漁荘秘録」(静岡新聞社、昭和五十一年)
- 小泉策太郎「随筆西園寺公」(岩波書店、昭和十四年)
- 安藤 徳器「園公秘話」(育生社、昭和十三年)
- 竹越興三郎「陶庵公」(叢文閣、昭和五年)
- 高橋邦太郎「西園寺公望と蜻蛉集」
- 「明治村通信十二号」(昭和四十六年)
- 「史窗第五十七号」(平成十二年三月発行予定) \*

平木 綾子(当館学芸員)

## 蔵書紹介

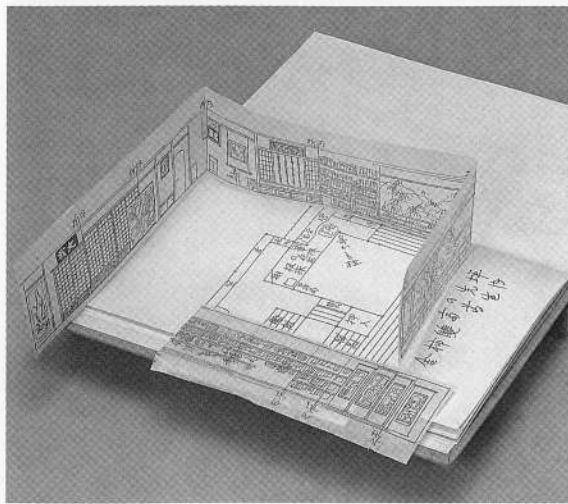
②

### あこがれの書齋

遠藤 照子(当館学芸員)

世の男性にとって自分の住まいに書齋という空間を持つことはあこがれるのであるらしい。書齋とはそもそも何であろうか。書齋についてさまざまな知識を与えてくれるのが、今回紹介する「書齋管見」(楠瀬日南著 昭和十年発行)である。

徳川夢声寄贈本の中のこの一冊は、書齋についてまとめられた数少ない本である。内容は著者が折りにふれ感じている書齋についての随筆



坪内逍遙の書齋「書齋管見」より

「書齋私観」と内外古今における文化人の書齋を探訪した「書齋寓目」から成り、多数の口絵や写真のほか起し図が収録されている。

書齋は一般的に読書や書き物をするための部屋と定義されている。心地よさそうな室内に書棚にあまたの典籍を並べ机の上に文具四宝を備えた風景が書齋としてのイメージである。こうした風雅な空間が理想的であるが、要は外部の煩わしさから逃れ独り静かに書物を楽しむ一室であればさほど贅沢は必要ではない。書齋を一番必要とするのは学者や文筆業の人々であろうが、意外とたいした書齋らしい部屋を持つこともなく普通の部屋を仕事場に使用していることが多い。住まいの空間はそこに住む人間の性格まで如実に映し出すことが多い。書齋もその主の流儀がそのまま反映されるようで、古今の文化人の書齋を紹介した写真を何枚か見るといかにもこの人らしい空間と納得できるところが面白い。

この本に明治の文豪夏目漱石の書齋として紹介されている部屋がある。二間続きの広い部屋で床には敷物をしき机の傍には書籍がうず高く積んである。明るい場所が好きだったようで執筆する時はバルコニーに机を出す習慣であった



「建築写真類聚」より

いずれにせよ一部の余裕ある文人のための書齋も一般庶民にまで流行してきたということはとりもなおさず日本が近代化してきたというべきであろうか。

## 明治村の仕事 6



今回は移築した文化財建造物の活用事例に関連した部署をご紹介します。明治村には教会が三件も移築保存されていますが、その積極的な活用として結婚式に使っていただいております。昭和五十六年から始められた結婚式は今年で二十年になります。その間に九百組を超える方が私共の教会から新しい人生を踏み出されました。神父の手配や式に必要な準備品等については利用者と担当者間で打合せをして挙式準備を進めていく手配りの結婚式です。

この結婚式を担当して十年になる渡辺忠幸さんと三年目の松山満美さんにお話を聞きました。

—この仕事で苦労する点はどのようなことですか。

渡辺 挙式されるお客様が抱えているイメージと文化財保存の立場とどううまく折り合いをつけるかということですね。というのは一般の式場とは違い、設備も方法もかなりの制約がある

ということをどれだけ理解してもらえるかということです。また当日一般のお客様と挙式関係者が双方気持ち良く利用していただくことに気を使います。

松山 歴史ある教会に魅力を感じて希望される新郎・新婦と、一般的な結婚式場と比べておられるご両親との間の意見の相違があるとご説明にも戸惑っています。

—この仕事に携わって良かったということはありますか？

渡辺 結婚後何年か経って、懐かしそうに教会を訪ねて下さるお客様がいらっしやいます。お二人の人生の記念すべき思い出に私がお手伝い出来た事が良かったと思います。

松山 挙式の時に、一般観光客も見学してライスシャワーなどに参加されると、思わぬ参加者に驚きと喜びを感じていらっしやるようで、そうした光景をまのあたりして私自身も嬉しいです。またその時見学されたお客様が私達も是非にと挙式を希望されるととても嬉しく思います。

—今後何か工夫したいことや要望がありますか。

渡辺 今後は結婚式だけでなく式に関するイベント例えば衣裳のファッションショーなども実施できればと思っています。

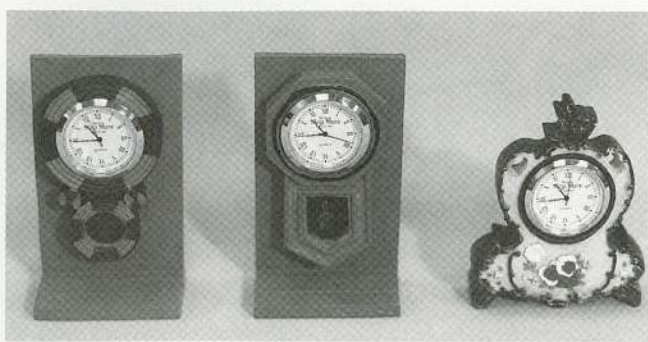
松山 文化財の教会を使用する記念としてオリジナルの引き出物として使っていただけるような商品を開発したいです。またとない思い出になると思います。

教会だけでなく他にもいろいろ活用できる建物がありますので、せいぜい皆様にご利用いただきたいと思っています。

明治村のミュージアムショップは約四百種類の商品を扱っています。入場者の多い春と秋の季節は店内に人が溢れます。お客様は修学旅行の学生、遠足の生徒をはじめ最近中高年の女性グループが多くなってきましたようです。

今回ご紹介する明治村オリジナルグッズは、時計とアクセサリです。

平成8年から販売している時計は、小さい置時計3種類と懐中時計2種類です。置時計のひとつアンソニア(一四五〇円)は現在西郷従道邸に展示し



ている館蔵資料を模したものです。原資料は、一八九〇年にアメリカで製作された時計で、外観はフランスのリモージュ焼でバラの絵付けが施されています。八角と四ツ丸時計(一五〇〇円)も同様に館蔵資料からそのデザインを模したものです。これらの時計は明治初期の輸入時計の典型的な様式です。懐中時計は明治初期に登場したもので、洋服を着用した紳士が金鎖をつけた時計をチョッキのポケットにしのばせることが流行しました。明治村で販売している懐中時計(三二〇〇円)は、文字盤にSLの絵を描いています。

アクセサリでは、平成2年から販売している十字架ペンダント

(大 一〇五〇円・小 九五〇円)があり、これは展示建造物聖ザビエル天主堂の十字架を模したものです。また平成3年から販売している釘隠を



デザインはかつて豊かな自然に恵まれた土地であった名残かと思われま。なおカフスセットは人力車をかたどったデザインのものもごさいます。館蔵資料の優れたデザインを生かした明治村オリジナルこそ、お土産に記念に欠かせません。ぜひお買い求め下さい。

かたどったタイタ

ック(七百元)・

カフスセット(一

五〇〇円)があり

ます。この釘隠は、

幸田露伴住宅「蝸

牛庵」の座敷に使

われている雁のデザインです。釘隠はその名の通り長押を柱にため付けた釘を隠す飾り金具で、宮廷建築や数寄を凝らした邸宅などに七宝細工などの巧みなデザインのもがよく見られます。「蝸牛庵」の旧所在地は、東京の墨東といわれた隅田川の東側に位置する場所、雁の



# 第三十四回 明治村茶会

明治村には全国から六十三棟の建物が移築公開されています。建物を外観から眺めるだけでなくもっとよく知りたいと思われる向きには、明治村茶会は建物の中で憩うことができる良い機会です。茶道を共通の話題として風雅なひとときを過ごしてみませんか。

## 茶席

### ◆坐漁荘・亦楽庵席

香雪美術館(神戸)

香雪美術館は、朝日新聞の創設者村山龍平氏の蒐収品により、昭和48年神戸御影の地に開館しました。館の名前は、龍平氏の雅号にちなんでいます。香雪翁は、其の生涯を通じ新聞事業に尽力する

かたわら、美術文化に深い関心を寄せその保護・奨励にも力を注ぎました。そのコレクションは日本及び東洋美術を網羅したもので、刀剣・絵画・書蹟・茶道具などが多く、質量ともに充実しています。今回はご所蔵品のなかから茶道具の名品を選びご紹介いたします。

### ◆三重県庁舎席

本多静雄展に寄せて(明治村)

財団法人明治村評議員で茶会運営委員であった本多静雄氏は昨年の茶会のあと、亡くなられました。百歳を超える長寿でしたが、その後半生の五十年を、陶器の発掘、民芸運動の支援、狂言に寄せた社会洞察をして茶の普及に尽されました。最後の明治人ともいべき本多静雄氏の事跡を訪ねる展示に寄せて、氏が多くの人々を招くために考案した手法をもつて開席いたします。

### ◆日本庭園・野点席

金重有邦(岡山・備前)

備前焼は六古窯の一つとして知られ、茶

の湯全盛の桃山時代から、その素朴な風合がもてはやされ今日まで多くの茶人たちを魅了してまいりました。今回は備前の伝統を継承しつつも新たな創作に取り組まれている金重有邦氏にご出品いただきました。入鹿池を望む日本庭園の新緑と「楽しいお茶」のひとつときをお楽しみ下さい。

### ◆点心席

三重県庁舎一階 名鉄大山ホテル調製

●日時 4月20日(木)・21日(金) 10時~16時  
臨時会員は21日のみとなります。

●会費 一万五千元(臨時会員)  
事前に臨時会員券(明治村・名鉄駅旅行センターなどで発売)をお買い求め下さい。

## イベント

### 〈公演〉

#### ●松井誠特別公演

日時：5月23日（火）・24日（水）・25日（木）

会場：呉服座

時代劇スター松井誠の芝居と舞踊公演

#### ●明治村春の芸能探訪

会場：5月13日（土）・14日（日）

場所：呉服座

舞妓の艶やかな舞踊を披露し村内を散策

#### ●寸劇

幕末明治に活躍した人物に扮した役者が  
村内で寸劇を実施。

土・日・祝開催

#### ●明治のものうり

明治のいでたちでものうりが実演販売。

#### ●スタンプラリー

偉人をさがせ！似顔絵入りサイン帳を手  
に村内で会った偉人のスタンプを押して  
回るラリー。

土・日・祝開催

#### ●ミレニアムコンサート

日時：4月30日（日）・5月28日（日）

会場：聖ザビエル天主堂

歌唱指導付唱歌コンサート

## その他

#### ●明治村剣道大会

日時：4月9日（日）

会場：第四高等学校武道場無声堂

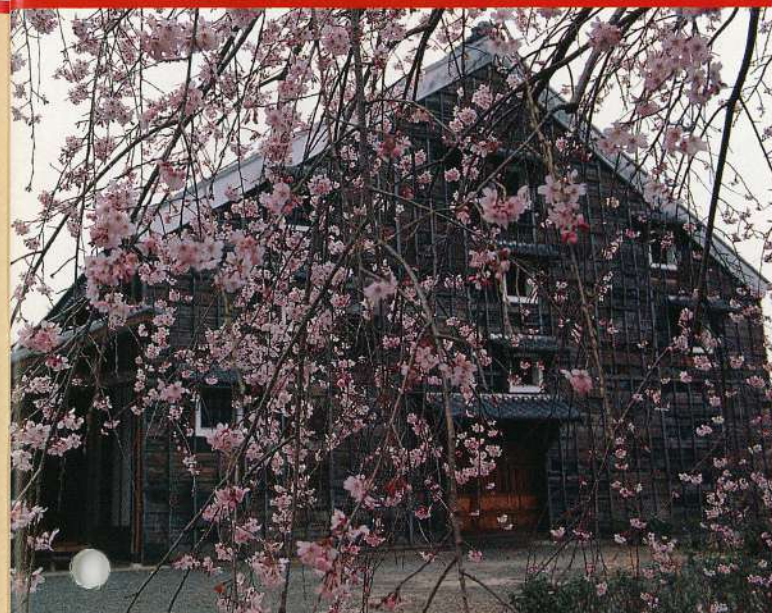
#### ●マドンナ撮影会

日時：4月2日（日）

#### ●ミレニアムウエディング

ミレニアムイヤーに挙式するカップル  
に証明書を発行。

※催事は都合により変更する場合がありますので、  
詳細については事前にお問合せ下さい。



## 展示

#### ●特別展示

素晴らしき明治の偉人たち ～お札に描かれたヒーロー～

会場：三重県庁舎1階展示室

福澤諭吉、伊藤博文などお札に描かれている偉人  
7人の遺愛品などを展示。

#### ●企画展示

「明治を築いた偉人の伝記」

会場：内閣文庫

館蔵図書のなかから伝記を特集して展示。

大パニツク！  
偉人がタイムマシンで  
やってきた

会期

3月18日（土）～5月28日（日）